

9-4			
主 題	口腔ケアの効率化と標準化を図るための環境整備を中心とした取り組みについて		
法 人 名	社会福祉法人 至誠学舎東京		
事業所名	特別養護老人ホーム 吉祥寺ナーシングホーム		
発表者（職種）	島村英（介護職）		
共同研究(実践)者	中野優利（介護職）		
電 話	0422-20-0869	F A X	0422-20-0806
今回発表の 事業所やサー ビスの紹介	当法人は 2012 年で創設 100 周年を迎えました。これからも地域の方々とともに創 る福祉を目指していきます。吉祥寺ナーシングホームは、平成 6 年 1 2 月より事業を開 始している、入所定員 50 名、短期入所定員 3 名の特別養護老人ホームです。		

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

当施設では、訪問歯科診療を受けての診察結果や指導内容を、ファイルにまとめて利用者ごとに整理し、個人の介護記録にも記載して周知を図っている。その情報量の増加に伴い、必要なケア内容を把握しきれない職員が出たことで、ケアの標準化を図る必要性が生じた。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

効率化を図ることで余裕を持ってケアを実施できる環境を整え、ケアの標準化を図ることで職員のスキル向上と正確な情報を直ちに現場に定着させることを目的とする。

《3. 具体的な取り組みの内容》

- ・口腔ケアの不安を職員から聞き取り、ケア方法の資料を新たに作成。根拠に基づいたケア方法を全職員が把握することで理解度の差を埋めると同時に、理解度が高い職員も自身が実施しているケア方法を見直す
- ・仕上げ磨きが必要な利用者の歯ブラシに目印をつけて可視化する
- ・歯ブラシの視認性を高めて見やすくする
- ・歯ブラシ立てを増やし保管しやすくする
- ・含嗽剤の希釈方法を再検討する

《4. 取り組みの結果》

- ・ケアの方法について理解度が高まった
- ・ケアに必要な情報を把握しやすくなった
- ・新入職員に教えやすくなった
- ・物品準備、使用、片付けがしやすくなった

《5. 考察、まとめ》

職員アンケートを実施し、ケアの効率化と標準化が進んだとの回答が多数あり、安心してケアを実施できるようになったと感じた職員が増えた。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

本研究発表を行うにあたり、ご本人に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

渡邊裕『口腔ケアの疑問解決 Q&A』(2013)
学研メディカル秀潤社
日本訪問歯科協会『口腔ケアチャンネル』
(2016)
[http://www.houmonsika.org/oralcarechan
nel/](http://www.houmonsika.org/oralcarechannel/)

《8. 提案と発信》

本研究が、現場の課題を表面化し業務改善を行う良いきっかけとなり、結果として各職員の不安を取り除きモチベーションを高められた。